みんなが楽しい学校　令和6年1月15日　第33号

大石小 Times

坂井市立 大石小学校
春江町上小森5-7-1
Tel 72-0030　Fax 72-2740
E-mail：info@ohishi.ed.jp

復興を願いながら、気持ちを新たに新学期を迎えました

1月9日（火）新学期の始業式を行いました。お正月を襲った能登半島地震についての話から始めましたが、どの子も怖い思いをしたことを思い出しながら、自分事として真剣に聞いていました。そして、亡くなった、たくさんの方を思って全員で黙祷をしました。つらいこと、悲しいことは突然やってきます。それでも心を寄せ合い、知恵を出し合い、助け合ってみんなで乗り越えていくしかありません。その度に、人の温かさや当たり前の日常のありがたさ、人間のたくましさ、力強さを感じます。その姿を子どもたちにはしっかりと自分の目で見てほしい。心で感じてほしい。そして自分にできることはないか考えてほしい。そういう思いで話をしました。亡くなった人の分も一生懸命がんばろう!とみんなで確認することができました。

ケーキとチキンが付きました

2学期最終日が休校になってしまい、楽しみにしていたクリスマスメニューが食べられなかったので、9日、大石小学校だけ特別にいちごケーキとフライドチキンが付きました。子どもたちは少しうれしそうでした。

なわとび頑張っています

外は厳しい寒さが続きますが、子どもたちは、体育の時間に縄跳びや器械運動を頑張っています。特に縄跳びは、どの学年もなわとび大会が予定されているので、大会に向けて一生懸命練習しています。みんな技を伸ばしていい結果が出ますように。

SC 廣澤愛子先生より おうちの方へ

年明け早々、大きな地震がありました。こんな時、子どもたちが（大人も）不安になるのはごく自然なことです。以下の3つは、心の安定に役立ちます。ご参考になさってください。

① 安心・安全を感じるように

余震が続くことは自然なことで、徐々に間遠になっていることを家族で確認しましょう。また、不安や怖い気持ちも、自然に話し合えるような、家族の雰囲気を作りましょう。夜、怖さが続くなら、いっしょに寝てあげるとよいでしょう。

② 地震へのそなえを

家族で地震に備えて、リュックに食品や日用品などを入れて置くなど、「できる＆見える対処行動」をとりましょう。

③ 症状が1か月以上続いたら相談

不眠や食欲不振、吐き気、あるいは「何度も地震のことを考えてしまう」「物音や揺れにずっとびくびくする」「感覚・感情が麻痺し、喜怒哀楽が生じない」などの症状が1か月以上続いたら、先生でもかかりつけ医でもいいので相談しましょう。1か月未満であれば大丈夫。ある程度は誰でも体験することです。

寄付をいただきました

（株）長田工業所様から大石小学校に多額の寄付をいただきました。そこで、図書室にベンチとスツールを購入しました。優しい色合いでとてもよい雰囲気になりました。みんな大喜びです。素敵な憩いの場になりそうです。